

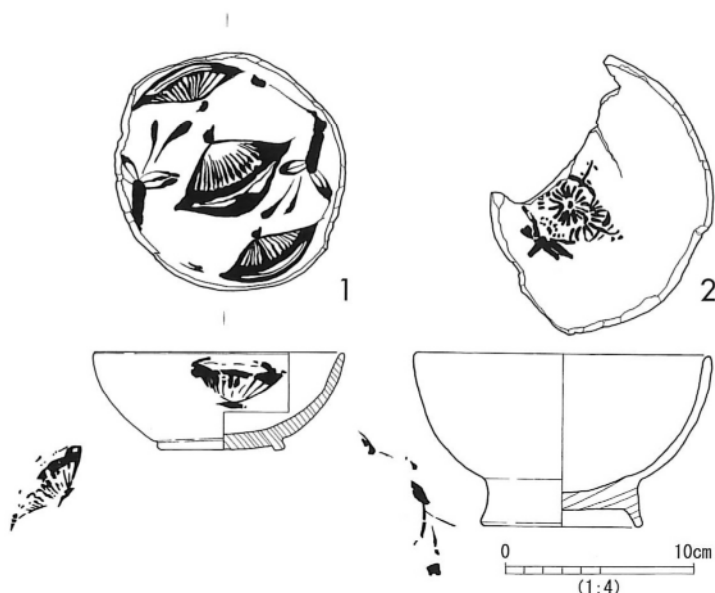
す。この漆器は形を保ったまま部分的に焦げ、小穴を開けていることから、碗以外に転用された可能性があります。

昨年度調査で「松」が描かれたほぼ同形の小皿が2点出土していました。今年度調査でも同じ「松」の文様が描かれた同形の小皿が1点出土しました。漆器皿は中世の普及食器である三ッ皿（組皿）と考えられます。

他にも、中央に簡略化された「鶴丸」を描き、その周りに「山」をイメージさせる文様が描かれた漆器が新たに出土しました。

また、「牡丹+扇」は他に類例がなく、「俵」、「鶴丸」、「笹」などいずれも吉祥を表す文様を施した漆器が多数出土しました。

小出城跡からは普及品である渋下地の漆器から、漆下地で塗りの精度が高い良質な漆器が出土しています。漆容器と考えられる曲げ物などが出土しており、城内に漆職人を招き、日常食器から高級漆器まで製作し、使用していたことが推測されます。（稲垣裕二）



研究余話X 地震と考古学について

鹿島昌也

（埋蔵文化財センター学芸員）

昨年9月、埋蔵文化財センター職員が新潟県十日町市立博物館を訪れ、免震装置に乗った国宝の火焰土器（縄文）を目にし、他の展示品と違う厚遇に感心していた。

その翌月、新潟県中越地震が発生し、この火焰土器が破損したとの新聞記事を目にした。免震装置の機能を上回る規模の地震によって、多くの文化財も被災した。

現地では地滑りや液状化現象がみられ、強い衝撃のあったことを示している。この液状化が注目され出したのは、奇しくも1964年東京オリンピック直前の日本列島を震え上がらせた「新潟地震」からである。

遺跡に残る地震痕跡

日本列島で、地震の原因となる活断層は各地に存在し、どこでも地震が起り得る。

遺跡を発掘すると、過去に発生した夥しい数の地震痕跡が検出される。小矢部市の若宮古墳では墳丘に小さな地滑りの痕跡が多く確認され、福岡町の木舟城の城下町では石組み井戸を引き裂いて噴砂の砂脈が確認されるなど、様々な現象が残されている。

地震考古学

（独）産業技術総合研究所関西地質調査連携研究体長の寒川旭氏にお聞きしたところでは、液状化が検出された場所に起る地震には数百～数千年単位の周期があるという。富山では1585年（天正地震）、1858年（安政の飛越地震）に液状化を発生させたM6級以上の規模の地震の記録がある。その周期を知っておけば現代の人々が生きてる間の富山は大丈夫だろう。遺跡で地震痕跡が発掘されたとしても無闇に恐れる必要がないと教えられた。

寒川氏は、「過去の地震を実証的に解明しながら、人々の歴史の中に位置付け、将来の生活に役立てる」をコンセプトに「地震考古学」を1988年に提唱された。

高岡市手洗野赤浦遺跡や岩坪岡田島遺跡では、幅数cmから1m近い砂脈が数多く検出されている。後者では、江戸時代の遺物を含む地層を引き裂いて砂脈が見られることから、安政の飛越地震によるものと推定されている。

地滑りや噴砂の痕跡はM6級以上の力が地面に加わり現れるという。その地面を覆った堆積土が確認できれば、それ以前に地震が発生したことが分かり、堆積土に含まれる土器や陶器などの年代以前の地震と判断できる。

地震の痕跡が残る地層を考古学的な視点で調査することによって地震の起こった年代や規模を推定することができる。

あわせて、地滑りや砂脈が起こった箇所の考古地磁気を測定する（土層中の磁気を帯びた粒子の磁力の強さなどによって年代を測定する方法）ことで地震の発生年代を推定する科学的な調査も富山大学理学部と協力して進められている。

地震の2次災害

新潟県中越地震で、山古志村など山間部に生じた天然ダムをみて、富山県民は、安政地震後、常願寺川の川底を押し上げ、流域で甚大な土砂災害を被った大鷲・小鷲山崩れが起こったことを思い出した方が多いのではないかと。

常願寺川中流域の右岸に位置する富山市水橋二杉遺跡では、近世期の遺構を覆って厚さ約10cmの粗砂を含む堆積層が確認された。

富山市水橋の若王子塚周辺を調査した際に、地元の方から常願寺川や白岩川が溢れた時、住民は築山に逃れて家が水に浸かる様子を見ていた、との話を聞いた。築山とは、古墳のことで、墳丘上部には中世～近世期に砂質土でかさ上げされた痕跡がうかがえる。先人が残した古墳が土砂災害からの緊急避難場所として利用されていたようである。現在では神社が祀られ、地域住民の拠り所となっている。

埋蔵文化財センターでは、平成14年に国土地理院が発行した呉羽山周辺の活断層地図作成に協力し、また昨年9月には県の消防防災ヘリに搭乗して、空から見える災害の痕跡と遺跡の関係を調査した。過去の地震災害の実態を把握することによって将来の防災に役立てたいものである。



富山県消防防災ヘリコプター

富山県教育委員会 埋蔵文化財センター所報
富山市の遺跡物語 第6号

平成17(2005)年3月15日

編集・発行 富山県教育委員会 埋蔵文化財センター
〒930-0803 富山市下新本町 5-12

TEL 076-442-4246 FAX 076-442-5810

URL <http://homepage2nifty.com/kitadai/> (北代縄文広場と兼用)

E-mail maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp

印刷 大栄印刷株式会社